

## 今週（9月19日から9月22日）の短期金融市場動向

### ●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積み期序盤ではあるものの、レート水準は徐々に上昇する展開となった。今積み期は、貸出増加支援オペ残高の増加により、地銀業態を中心にマクロ加算残高枠が増加している。加えて、営業日数が少ない上に、四半期末日が週末となる事から、月末の調達を控える先などからは積極的な調達姿勢が窺われた。

無担保コールO/N物の加重平均レートは、週初19日(火)の▲0.059%から始まり、緩やかに上昇する展開であったが、週末となった22日(金)は、3日積みとなる事もあり、一段と上昇した。

ターム物に関しては、ショートターム物を中心に、週初は▲0.06%近辺での出会いとなっていたが、O/N物の影響もあり週後半にかけて上昇する展開となった。

今週の日銀当座預金残高は、544兆円程度から始まり、20日に国債の大量償還・利払いを受け547兆円程度まで増加した。その後は金融調節によりやや増加し549兆円前後での推移となった。

21日から22日にかけて行われた金融政策決定会合では、現状維持が決定された。

### ●レポ市場

今週のO/N GCは、▲0.25～▲0.10%のレンジでの取引となった。足元GCは、業者の在庫ファンディングニーズが軽く、レートはタイト目に推移した。

SCは、カレント銘柄近辺やチーペスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

### ●短国市場

今週の短国市場は、全般的に堅調な推移となった。

19日に実施された1Y物入札は、テールの流れる結果となったが、結果発表後のセカンダリーマーケットではしっかりと推移した。21日に実施された3M物入札は、無難な結果となり、結果発表後のセカンダリーマーケットでも堅調に推移した。

20日に実施された短国買入オペは、前回と同額の1,000億円でオファーされ、按分利回較差0.000%、平均利回較差+0.006%と、やや強めの結果となった。

### ●CP市場

今週のCP発行市場は、不動産、医薬品、卸売等の業態で大型発行が見られた。

市場発行残高は、前週に引き続き27兆円台前半で推移している。

発行レートについても、引き続き0%近辺での出会いが中心となっているが、ロングターム物の案件では、日銀による政策変更に対する警戒感からか、レート水準にばらつきが見られた。

### ●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
9/18 (月)						
9/19 (火)	33,242.59	0.715	147.67	△ 0.059	△ 0.151	5,439,400
9/20 (水)	33,023.78	0.720	147.80	△ 0.056	△ 0.174	5,471,900
9/21 (木)	32,571.03	0.745	148.34	△ 0.049	△ 0.181	5,491,000
9/22 (金)	32,402.41	0.741	147.64	△ 0.039	△ 0.289	5,481,600

## 来週（9月25日から9月29日）の短期金融市場動向

### ●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
9/25 (月)					
9/26 (火)	月例経済報告（内閣府） 8月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)	40Y 7,000億円 9/27発行			7月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 8月の米新築一戸建て販売件数 9月の米CB消費者信頼感指数
9/27 (水)	金融政策決定会合議事要旨(7月27・28日分 8:50) 7月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)				8月の米耐久財新規受注
9/28 (木)		2Y 29,000億円 10/2発行			4-6月期の米GDP確報値
9/29 (金)	9月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 8月の一般職業紹介状況(有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 8月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 8月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 8月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50) 8月の住宅着工統計(国土交通省 14:00) 9月の消費動向調査(内閣府 14:00)	TB3M 56,000億円 10/2発行	交付税借入 13,000億円 10/11借入		8月の米個人所得・消費支出(PCE) 9月のシカゴPM景況感指数 9月のユーロ圏消費者物価指数速報値 4-6月期の英GDP確報値

### ●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
9/25 (月)	600	12,300	12,900	CP買入 社債買入 国債補完	▲ 200 ▲ 200 37,400		37,000	49,900	TB3M発行▲56,000償還63,000
9/26 (火)	▲ 500	▲ 3,000	▲ 3,500				0	▲ 3,500	
9/27 (水)	▲ 1,000	▲ 22,000	▲ 23,000	全店共通	▲ 9,400		▲ 9,400	▲ 32,400	財政融資資金の回収 40Y発行▲7,000
9/28 (木)	▲ 1,000	▲ 3,000	▲ 4,000				0	▲ 4,000	
9/29 (金)	▲ 200	600	400	CP買入		4,000	4,000	4,400	
週間合計	▲ 2,100	▲ 15,100	▲ 17,200	—	27,600	4,000	31,600	14,400	

9/25は日銀予想、9/26以降は当社予想

### ●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、引き続き邦銀業態を中心に調達ニーズの強い展開が見込まれる。レート水準もやや高めに推移すると思われるが、29日(金)は、四半期末要因から調達を控える先もあり、レートはやや低下すると予想される。また、引き続き大手行の動向にも注視したい。債券レポ GC T/N物は、▲0.30～▲0.10%のレンジでの推移が予想される。短国市場は、29日に3M物の入札実施が予定されている。また、25日に実施が予想される短国買入オペは、1,000億円程度が見込まれる。CP市場は、26日にCP等買入オペが4,000億円を実施予定となっており、レート動向が注目される。また、27日には月末発行を控えており、四半期末越えの発行がどの程度集まるのかも注目される。

主要なイベントは、国内では29日に9月の都区部消費者物価指数、8月の有効求人倍率・完全失業率、海外では、26日に8月の米新築一戸建て販売件数、28日に4-6月期の米GDP確報値、29日に8月の米個人所得・消費支出(PCE)、9月のユーロ圏消費者物価指数速報値、4-6月期の英GDP確報値などの発表が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入